

Global Health Seminar 2019



パレスチナ・ガザの支援現場から —いのちを守る緊急医療・未来を育む母子保健—

70年以上にわたり紛争や軍事占領が続くパレスチナ。イスラエル軍による厳しい封鎖で人や物資の出入りが厳しく制限されているガザ地区では、経済状況が非常に悪く、人々は高い失業率と貧困に苦しんでいます。中でも社会的に弱い立場におかれている女性と子どもは特に影響を受けやすく、栄養失調や貧血の症状が顕著に出ています。このような希望を見出しにくい状況の中、ガザの国境では、昨年3月から封鎖の解除と故郷への帰還権を求めるデモが毎週続けられています。

デモで負傷した患者の治療に当たった北海道パレスチナ医療奉仕団の猫塚医師と、ガザに通い、子どもの栄養改善事業に携わるJVCの山村。それぞれの活動を通して見えた、ガザの人々の生の声を伝えます。会場では募金の受付とパレスチナ刺繍商品（フェアトレード）の販売も行います。



猫塚義夫 医師・北海道パレスチナ医療奉仕団 団長
整形外科医、札幌市在住。2010年に北海道パレスチナ医療奉仕団を立ち上げ、現地で医療支援を毎年実施。2018年夏はデモ負傷者急増を受け、WHOの要請に応じて、ガザの病院で支援活動を実施した。日本でも現地でも、患者の向こう側にある「それぞれの人生」を考え、耳を傾けながら、一人ひとりの治療にあたっている。また医療活動を通じて見えてくるパレスチナ占領の暴力性について、精力的に発信を続けている。



山村順子 日本国際ボランティアセンター（JVC）
エルサレム事務所 現地代表
英国院で紛争と開発について学ぶ。民間企業勤務を経て、パレスチナを訪問したことをきっかけに、中東に関わる。JVCボランティアや他NGOでのインターン、アブダビでの教育・投資事業に従事したのち、16年5月にJVC入職。17年2月から現地に駐在し、月に数日ガザへ入域している。その土地の人々から学ぶ姿勢を大事にし、活動を行う。

2019年8月30日(金)

18:00～19:30 (17:30開場)

＊講演：

猫塚義夫（北海道パレスチナ医療奉仕団）

山村順子（日本国際ボランティアセンター）

＊定員：100名（要事前申し込み） 入場無料

＊会場：〒104-8560 東京都中央区明石町9-1

聖路加国際病院本館2F トイスラー記念ホール

＊主催：聖路加国際大学 国際・地域連携センター

共催：日本国際ボランティアセンター(JVC)、

北海道パレスチナ医療奉仕団

＊お問い合わせ：

◆聖路加国際大学 国際・地域連携センター

E-mail: international@slcn.ac.jp Tel: 03-5550-2246

◆日本国際ボランティアセンター 担当：渡辺真帆

E-mail: m-watanabe@ngo-jvc.net Tel: 03-3834-2388

＊お申込フォーム：

<https://forms.gle/gNPZgffSPAZPYyAq7>



St. Luke's International University
聖路加国際大学
Do Your best, and it must be first class